

中小企業支援機関×マイクロソフト 「IT利活用推進」への思いを共有 人のネットワークが新たなサービス企画を生む

IT利活用による経営改革支援のキーワードは「連携」。持ち場を生かした協力体制の構築は、「機関」「企業」だけではカバーできない新たなサービスを地域企業に提供する。ITベンダーの立場で地域のIT化推進活動を展開しているマイクロソフトも、この考え方に基づき、地域支援機関との協力体制を築きつつある。本コーナーではその現場をレポートする。

2006年2月7日に岡山県で開催された地域企業向けイベント。



「第1回岡山経革広場ユーザー大交流会」におけるマイクロソフト ダレン・ヒューストン社長の講演風景(右)および会場風景



講演会の壇上で高らかにスピーチしていたのはマイクロソフト社長のダレン・ヒューストン氏だった。なぜ、マイクロソフトの社長が岡山に?.....

それは岡山市、岡山県中小企業団体中央会をはじめ、岡山県内の自治体、支援団体・機関が進めてきたマイクロソフトとの連携を象徴するシーンだった。本セミナーは「e-Management Expo 2006 in Okayama 第1回岡山経革広場ユーザー大交流会」

「大交流会」。ビジネスポータルサイト「岡山経革広場」の利用者を対象にした交流イベントである。

自治体主導で実現した「岡山経革広場」

岡山では、マイクロソフトの「経革広場 地域版」を2003年7月から全国に先駆けて運用している。

「経革広場」は中小企業の経営に有効な各種情報や受発注の場を提供するWebサイトだ。岡山経革広場では全国版の基本情報を活かしつつ、岡山独自の地域コンテンツを織り込んでいく。会員登録すると、例えば製造・印刷等仕事情報の受発注取引への参加をはじめ、深いサービスを受けられる。現在

岡山県在住の経革広場登録会員は6000名ほどだ。地域側は各種情報・インフラの提供およびマイクロソフトによる広報の効果を得られ、マイクロソフト側はサイト利用企業の傾向を把握できるメリットがある。

サイトの運用は県内数多くの自治体、団体、企業で構成される岡山経革広場推進協議会で行っている。同協議会の事務局を務める岡山県中小企業団体中央会連携推進部部長の栢菅一久氏は、「県内にはまだパソコンが入っていない企業、使いこなせていない企業がある。ITの利活用普及への仕組みと「仕掛け」作りに経革広場を活用している」と地域版の狙いを説明する。

岡山・「半歩先行くIT化支援に挑む」



岡山県中小企業団体中央会 連携推進部部長・栢菅一久氏(写真中央) 事業推進課主事・板谷賢一氏(写真左) 連携開発課主事・赤松茂氏(写真右)

岡山経革広場推進協議会 事務局 岡山県中小企業団体中央会

中小企業の組合員等を会員として設立された団体。組合等の設立や運営の支援、任意グループなど連携組織の形成支援を行うほか、中小企業の経営相談にも応じている。「今後は、人材マッチングや商業振興にITを活用していきたい」との意向。

アライアンス形態 岡山経革広場の運営を通じた協業。ユーザー会の実施、IT経営応援隊事業の推進など。月1回の岡山経革広場推進協議会にはマイクロソフトも参加

機関特性 業界ごとのアプローチが可能。自治体との関係が密接

Webサイト開設当初は情報化施策に積極的な岡山市が電子自治体の実現を目的に運用を牽引してきたが、県内企業のビジネス活性化の色彩を強め始めた2005年からは、経済団体である同中央会に事務局が移行された。会長の中島博氏(株式会社システムズナカシマ代表取締役会長)の熱意あふれる活動も本サイトの運営推進・普及に大きく貢献しているという。

ユーザー会の実施で 県内企業交流の場を提供

岡山の活動はWebサイトの運営だけではなく、これを具体的な

など10業種に拡大している。月間ページビュー(閲覧された延べ回数)は約10万。同中央会事業推進課主事の板谷賢一氏は「会員一人当たりのページビューが増え、利用されているという実感を持っているようになった。会報誌での紹介など告知に努めているが、コンテンツの拡大に伴って業種別の訴求にも力を入れていきたい」と話している。

「人や企業の交流」に発展させているところに特徴がある。

冒頭で紹介した交流会「岡山経革広場ユーザー大交流会」がその具体例だ。経革広場に参加している企業が集い、学び、かつ交流を深める。「場」が存在することで、IT利活用への歩みを加速させようというものだ。第2回目は2006年6月22日に経済産業省推進・IT経営応援隊事業の「1日IT経営応援隊 in ちゅうごく」岡山会場版として開催された。

岡山経革広場推進協議会とマイクロソフトとのミーティングも頻繁に行われている。日ごろの両者のコミュニケーションがあったからこそマイクロソフト社長の講演も実現したといえる。協業の様子を聞くと、岡山県中央会の事務局メンバーは口をそろえて言う。

「岡山を深く理解し、いつも熱心に対応してもらっている。ダレン社長の招聘にはマイクロソフト社内で複雑かつ膨大な手続きが必要

「岡山経革広場」
http://www.keikakuhiroba.net/okayama/

岡山独自のコンテンツ
全国版と共通のコンテンツ

だったはず。こうした熱意を見ると我々も手を抜くことはできない」意欲のある機関と企業が刺激し合い、次の企画を生み出しているのだ。

岡山は経革広場を核にした連携だが、地域事情や支援機関のニーズによりそのあり方も多様である。

支援の入口であるセミナーに コンテンツを提供

地域企業の支援においては、ITを活用した成功事例(経営革新事例)やITを活用するメリットをわかりやすく伝え、企業経営者や担当者の理解を得ることが出発点となる。



福岡商工会議所
振興部 IT支援グループ長 吉本健一氏(写真右)、
土斐崎美幸氏(左)

福岡商工会議所では、ホームページ作成支援やITインストラクター派遣などを通じて、地域の実情に合ったIT利活用支援を行っている。

部長・案野健治氏は、現在のやまぐち経革広場について「財団のWebサイトは情報が県内のものに限られる。経革広場によって全国の有益な情報を県内企業の皆様に入手していただけるようになった」とメリットを説明する。今後はアクセス数(サイト訪問者数)をいかに増やすかが課題であり、数あるWebサイトの中で際立たせていく方策を検討していきたいとのことである。

山口でも、2005年3月のやまぐちIT経営応援隊イベントにマイクロソフトのマイケル・ローディング前社長が講演を行うなど、セミナー面での具体的な連携も実現している。

2005年11月にIT実践塾のセミナーを開催した福岡商工会議所では、ナレッジネットワーク社の森戸裕一氏による「ITの効

「IT実践塾」の活用が セミナーメニューを増やす

福岡商工会議所で実施したIT実践塾の講演内容 (共催：日本ヒューレット・パッカード)

講師	森戸 裕一 ナレッジネットワーク株式会社 代表取締役 中小企業向けのIT経営手法、企業戦略のエキスパート。
テーマ	「儲けるため」「勝ち残るため」の「スピード経営」のすすめ!! ～業務改善のひと工夫 情報共有のひと工夫～
内容	●中小企業が抱える業務上の課題とその処方箋 ～情報共有で「スピード経営」の実現～ ●1台のサーバーでここまでできる! ～住宅メンテナンス会社のIT活用事例～ ●IT導入で経営改善を行うための4つの視点 ～賢いサーバー導入のために～

果とサーバーの活用」をテーマにした講演が行われた。同商工会議所振興部IT支援グループ長の吉本健一氏は、「県内企業の実情をよく知る講師が、実態に合わせた講演を行う企画だったことが採用のポイント」と説明する。地域ではサーバー活用はこれからという企業も多いため、参加者はサーバーのデモ機を用いた説明に興味を示したそうだ。

このたびのIT実践塾開催は、福岡に拠点を持つ森戸氏の講演実績を基盤にしたものだ。今後の展開は地域企業の課題・ニーズとセミナー内容を照らし合わせて吟味していきたいとのことである。

連携する意味を どう考えるか

以上、「経革広場」「セミナーコンテンツ開発」「IT実践塾」を通じたマイクロソフトと各地域の連携事例を紹介してきた。同社の支援メニューをうまく活用することで、地域機関は、サービスをより充実させることができるだろう。ただ、連携への漠然とした不安

「マイクロソフト1社だけと連携して良いのか」という疑問も生じるかもしれない。やまぐちIT経営応援隊では、この点について「マイクロソフトは全国IT推進計画を立て、社会貢献活動の一環として地域活動を行っている。その考え方に納得した」と説明する。活動現場で直接製品販売を行うのではなく、IT活用の土壌作りを目指している点

が、自治体や公的機関の方向性と合致しているとのことだ。岡山県中小企業団体中央会でも「情報のベース(OS)を作っている会社はマイクロソフトを置いてほかにない。その立場を踏まえたIT利活用推進の姿勢は我々とベクトルが同じ」と指摘する。そしてさらに「マイクロソフトとの連携のなかで合理的な経営手法を学んでいきたい」とも言う。

一つの連携から得られる実は大きいようだ。

お問い合わせ先
マイクロソフト株式会社
中小企業IT化支援センター
電話 ☎ 0120-58-0196
URL : <http://www.microsoft.com/japan/smallbiz/itkeiei/>

本プロジェクトは「やまぐちIT経営応援隊」(地域機関の連携組織)とマイクロソフトが共同で表計算ソフトExcelを活用した経営革新事例セミナーを開催していくというもの。業務のムダとその改善事例を紹介することで、データが宝の山に変わりうることに気づいてもらうことが目的だ。やまぐちIT経営応援隊の構成機

表計算ソフト活用企業の 成功事例コンテンツを制作

講演内容や資料といったコンテンツの企画には気を遣うところだが、すべてを一から企画・制作するのは負担も多いことだろう。マイクロソフトでは、各地域で教材・セミナー資料として利用できるコンテンツの開発にも力を入れている。また「IT実践塾」という地域展開可能なセミナーメニューを用意しており、地域支援機関がセミナーサービスの一つに組み入れられるようにしている。前者のセミナーコンテンツ開発に向け、今夏から山口県で新しい取り組みが始まった。

関であるやまぐち産業振興財団が事務局を務め、山口県ソフトウェアセンターとマイクロソフトがコンテンツを開発。さらに、ITコーディネータ組織であるITCややまぐち協同組合が助言を行っていく。コンテンツ開発を担当する山口県ソフトウェアセンター企画研修課長の山本偉知朗氏は、「マイクロソフトのOffice製品はパソコンにプリインストールされており、投資をせずに使うことができる。セミナーで既存のソフトを活用した効果を実感してもらえば、ITはお金がかかるというイメージの払拭と活用意欲の喚起が期待できる」と狙いを話す。プロジェクトは2006年6月2日にキックオフし、秋のセミナーを目指して活動を進めている。本コンテンツの著作権はマイクロソフトが所有するが、「監修・やまぐちIT経営応援隊」と明記されマイクロソフトが全国で実施するセミナーにて活用される。「山口県産のコンテンツ」が全国に広まれば、県の知名度もアップし、山口県のIT活用企業がさらに増える

県内企業に全国の 情報を伝えたい!

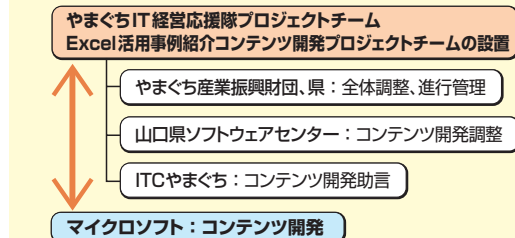
山口とマイクロソフトとの協業は、2004年5月開始の「やまぐち経革広場」にさかのぼる。経革広場の地域展開情報をキャッチしたやまぐち産業振興財団の職員が中心となり、自治体や商工会

果とサーバーの活用」をテーマにした講演が行われた。同商工会議所振興部IT支援グループ長の吉本健一氏は、「県内企業の実情をよく知る講師が、実態に合わせた講演を行う企画だったことが採用のポイント」と説明する。地域ではサーバー活用はこれからという企業も多いため、参加者はサーバーのデモ機を用いた説明に興味を示したそうだ。

「やまぐち経革広場」
<http://www.keikakuhiroba.net/yamaguchi/>

やまぐちIT経営応援隊連携内容例

1 Excel活用セミナーコンテンツ開発



2 やまぐち経革広場 3 セミナーの開発

議所等の地域支援機関の協力を得て運営をスタートさせた。同財団総合経営支援部事業企画

山口・「ITを身近に感じられるコンテンツを」



財団法人やまぐち産業振興財団
総合経営支援部事業企画部長・案野健治氏(写真右から二人目)、
同主査・渡辺正志氏(左)

株式会社山口県ソフトウェアセンター
企画研修課長・山本偉知朗氏(写真右)、
コンサルタント・野中洋氏(写真左から二人目)

やまぐちIT経営応援隊

上記2組織、およびITCやまぐち協同組合、山口県情報産業協会、山口県セキュリティマネジメントフォーラム、山口県中小企業団体中央会、山口県産業技術センター、山口県新産業振興課および経営金融課による中小企業IT利活用に関する連携会議。2005年8月に発足。相互の意見交換、情報交換を元に、それぞれの資源を有効に活用して具体的な事業を企画・実施している。

アライアンス形態 やまぐち経革広場の運営、IT経営応援隊イベントの開催、Excel活用セミナーコンテンツ開発
機関特性 県内支援機関の持ち味を活かした活動が可能